

# CYBER WORLD

マザックワールドコミュニケーションマガジン

08-02

SMOOTH  
T E C H N O L O G Y

New Year's Greeting

## 年頭ご挨拶

Event Report

## JIMTOF 2016

イノベーションはここからはじまる。

Customer Report

- 05 シモダフランチ 株式会社
- 07 本田精機 株式会社
- 09 GN CORPORATIONS INC.
- 11 Elting Geräte- und Apparatebau GmbH & Co.KG
- 13 MAZAK PEOPLE
- 14 News & Topics
- 15 美術館情報

2017  
No. 50



## 年頭ご挨拶

ヤマザキマザック株式会社  
代表取締役社長 山崎 智久

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

昨年は、6月の英国のEU離脱決定いわゆる Brexit や11月のアメリカ大統領選でのトランプ氏の勝利と、いずれも多くの人の予想に反した出来事が起きた一年でありました。これらに伴い、その直後には株式市場や外国為替市場において乱高下がありました。

このような状況の下、企業が設備投資に慎重になったこともあり、工作機械業界にとりましては総じて厳しい年でありました。しかしながら9月に米国で開催されたIMTS、11月に日本で開催されたJIMTOFでは過去最高レベルの来場者数となるなど、年後半にかけては一部に明るいニュースもございました。

昨今、各産業においてIoTへの取り組みが活発化していますが、工作機械業界も例外ではなく、昨年開催されたIMTSやJIMTOFではIoTをテーマとした展示が数多くみられました。決して好調とはいえない市況の中、過去最高の来場者数となったことは、一つにはIoTに対する期待の高まりを表しているものといえます。

このような中、当社は製造業のIoT化に向け、IT業界大手のシスコ・システムズと共同開発した、安全に工場内をIoT化するためのネットワーク接続装置「MAZAK SMARTBOX™ (マザック スマートボックス)」を、まずは日米で販売開始することを発表致しました。「MAZAK SMARTBOX™」は米国の製造業向けオープン通信規格「MTConnect®」に準拠しており、当社の工作機械のみならず、さまざまな設備機器にも用いることができ、工場全体をつなぐことを可能としております。当社ではこの「MAZAK SMARTBOX™」がIoTの普及に大きく貢献できるものだと考えております。今後は「MAZAK SMARTBOX™」を介して集めたビッグデータを活用した、生産性の向上やマシニングの最小化につながるクラウドサービスの開発を進めて参ります。

当社では、古くは工作機械のメカトロニクス化に始まり、FMS 無人化工場、CIM 工場などの技術革新を長年にわたり

# 2017

New Year's Greeting

積極的に自社の設備投資に取り入れて参りました。今後は工作機械メーカーが長年蓄積してきた技術と近年急速に進化してきたICTを活用し、さらなる高みを目指して行くことが必要となります。

ICTの活用は、当社の設備投資にとりまして重要なテーマであります。当社は1998年に工場の高度な自動化を進めたサイバーファクトリーを稼働させました。サイバーファクトリーの運営を通して蓄積した自動化技術や工場管理ノウハウをさらに進化させたものが「iSMART Factory™」といえます。iSMART Factory化については、既に米国および本社において段階的に開始致しておりますが、今後は国内外の他の生産拠点においてもiSMART Factory化を加速して参りたいと考えております。

IoTに関わる技術を積極的に自社の設備投資に取り入れ、その技術やノウハウを蓄積して行くことで、IoTに関しても今まで以上にお客様の多様なニーズにお応えできるものと確信しております。

また工作機械の開発については、IoTに則した工作機械やCNCコントローラーの市場投入以外でも、従来の切削型工作機械に異なる加工技術を融合した、いわゆるハイブリッド複合加工機の開発を積極的に継続しております。昨年のJIMTOFでは4機種ものハイブリッド複合加工機を出展し、他社の取組みと差別化することにより好評を得ました。今後もハイブリッド複合加工機を含め工作機械そのものの技術革新にも努めることにより、世界のモノづくりの発展に寄与して参りたいと考えております。

本年も先行きが見通しづらい経済環境ではございますが、お客様と共に新しいモノづくりの未来を切り拓いていけるよう、ヤマザキマザックグループ一体となり力を尽くしてまいります。

最後になりますが、本年も一層のご愛顧を賜りますようお願い申し上げますとともに、皆様の益々のご健勝を祈念申し上げます。



# JIMTOF 2016 Event Report

## イノベーションは、ここからはじまる。

アジア最大級の工作機械見本市「第28回日本国際工作機械見本市(JIMTOF2016)」が11月17日から22日までの6日間、東京ビッグサイトで開かれました。今回は海外勢を含め史上最大数の出展企業が集まり、開催期間中の総来場者数は現行の集計方式では過去最多となる14万7600人となりました。例年、JIMTOFは出展各社が新技術や新製品などを発表する場となっており、今回も各社のIoTに対する取り組み、Additive Manufacturing(金属積層造形)など異なる加工技術を組み合わせた新製品に開催前から注目が集まっていた。

マザックは「SMOOTH MACHINING / SMART MANUFACTURING -イノベーションはここからはじまる-」をテーマとして、全体をスマートファクトリーと見立てたブース内に、ハイブリッド複合加工機4機種を含む計21台を出展、IoTとSmooth Technologyによる革新的なソリューションを披露しました。

ブース中央には「MAZAK IoT LIVE!」と名付けたIoTソリューションのデモコーナーを設置、展示機および本社大口工場のリアルタイム・モニタリングや各種ソフトウェアの実演を行いながら、来場者にIoTを活用したスマートファクトリーのイメージをわかりやすく紹介しました。

また、ブース内で開催されたマザックの最先端複合加工技術やIoTを活用した生産性向上についてのソリューション・セミナーは大変好評で、参加者はメモを片手に熱心に耳を傾けていました。

### IT業界大手 シスコ・システムズとの協業を発表～MAZAK SMARTBOX™の国内販売を開始～

マザックはJIMTOF開催前日の11月16日にIT業界のリーディングカンパニーであるシスコ・システムズ(以下シスコ)との製造業のIoT化促進とクラウドサービスの開発に向けた協業を発表しました。JIMTOFではシスコと共同開発したMAZAK

SMARTBOX™を出展、日本国内の販売を開始しました。MAZAK SMARTBOX™は、高度なサイバーセキュリティを確保しながら、製造業向けオープン通信規格「MT Connect®」対応の機器同士をメーカーやモデルの新旧を問わず接続することを可能としています。MAZAK SMARTBOX™を介してブース内の展示機すべてがつながり、稼働状況がモニターに映し出されている様子は、工場の安全なIoT化を検討する製造業関係者の高い関心を集めていました。

### Smooth Technologyはさらに進化

今回のJIMTOFでは、Smooth Technologyを「最先端加工」「計測・補正」「工具



01. ブース正面のプレゼンテーションステージでは、IoTやSmooth Technologyなど最先端の技術を紹介
02. MAZAK SMARTBOX™を介してブース内すべての展示機をネットワークに接続
03. 拡張性に優れた省フロアスペース多段パレットストックシステム MPP 500
04. 新たな金属積層造形技術を搭載したINTEGREX i-200S AMは多くの来場者の注目を集めた
05. ハイブリッド複合加工機の加工サンプル
06. マザックの新技術を説明した「ソリューションセミナー」
07. 「MAZAK IoT LIVE!」ではスマートファクトリーをわかりやすく解説

データ管理」「稼働監視・分析」「工程計画」「自動化システム」の6つに体系化し、工作機械の生産性向上に直結するさまざまなソリューションとして提案しました。「最先端加工」では複合加工機によるスカイピング加工などのアプリケーションを実演、「自動化システム」として、拡張性に優れた省フロアスペース多段パレットストックシステムMPP (Multi Pallet Pool) 500や横形マシニングセンタ FF-5000を2台連結したセルシステムが展示されました。MAZATROL Smooth CNCコーナーでSmooth Technologyの各種アプリケーションを体験した来場者は、その高い実用性と直感的な操作性に目を見張っていました。

### 注目を浴びたハイブリッド複合加工機シリーズ

切削型工作機械に異なる加工技術を融合したハイブリッド複合加工機は4機種をシリーズ展示。金属積層造形技術を搭載したAMシリーズでは、(シングル)レーザ式のVC-500 AM(米国工場製)、マルチレーザ式のVARIAXIS j-600 AMの3機種による微細加工やコーティング、部分造形などの加工実演を行いました。また、摩擦攪拌接合技術を搭載したFSWシリーズは、素材の材質や厚みの違いにより発生するさまざまな接合パターンにも対応する新開発のFSW ツール自動交換機能を搭載したVTC-530/

20 FSWを展示しました。

さまざまな加工ニーズに応える4種類のハイブリッド複合加工機の実践的な加工アプリケーションは、国内外の来場者から大きな注目を浴びていました。

マザックは今回のJIMTOFでご紹介したSmooth TechnologyによるトータルソリューションとIoTを活用した、スマートなモノづくりを提案していきます。



**シモダフランジ株式会社**  
 代表取締役会長：下田 知也  
 代表取締役社長：下田 信治  
 所在地：兵庫県相生市竜泉町250  
 従業員数：100名  
 www.shimoda-flg.co.jp

Fitting & Forging Producer  
**SHIMODA**

# Customer Report 01

## 拡・脱・超を柱にフランジの可能性を追求

Japan シモダフランジ 株式会社

JR相生(あいおい)駅前の広場に横たわる巨大な錨(いかり)は、かつて造船業で栄えたこの地の名残を留めるモニュメントです。鍛造フランジ、鍛造継手製造販売大手のシモダフランジ 株式会社(兵庫県相生市)も地元の造船所の協力工場の一つとして産声を上げました。今日、その事業は海から陸、空へと進展。重厚長大産業を中心とした国内外の販路拡大や時流に応じた市場開拓で独自の存在感を誇ります。



Hyogo, Japan



02



03



04

01. 立形CNC旋盤MEGATURN SMARTをはじめとする多くのマザック機が並ぶ工場内  
 02. 品質重視の姿勢は社員一人ひとりに徹底されている  
 03. 同社の代表的なフランジ部品  
 04. 下田会長(前列左から3番目)と下田社長(前列左から4番目)と社員のみなさん

シモダフランジの前身は下田知也会長の実父が1946(昭和21)年に興した個人企業です。実父が当時市内唯一の造船所だった播磨造船所(現在の株式会社IHI)に勤めていた縁で、当初は同造船所向けの船舶部品を製作していました。1948(同23)年に株式会社 下田鉄工所として発足し、1990(平成2)年現社名に改称しています。



下田会長(右)の熱い情熱と下田社長の聡明なビジョン  
 二人の強力なタッグが新たな時代を作り上げてきた

造船全盛時代には機械設備を積極的に増強。フランジ専門工場として、素材調達から出荷に至る一貫体制を築き上げました。ところが、1974(昭和49)年からの造船不況で売上高が半減。会社存亡の危機に直面した下田会長は新規顧客開拓のため、北米の長期市場調査を敢行します。

翌年には「脱造船」を掲げ「海から陸へ」の積極的な営業を推進。石油精製向け事業を第二の柱としていきました。アラスカパイプライン用の大型フランジの大量受注はその成果です。しかし、一時は売り上げの7割近くを占めた同分野向けの配管フランジも、1990年代後半には陰りが見え始め、同社は再び苦境に立たされます。

### 至難の認証取得を実践的な人材教育の場に

2度にわたる経営環境の激変は同社に方向転換を迫りました。こうして導かれたのが「拡：フランジ、脱：フランジ、超：フランジ」という3つの切り口で、過去に培ってきたノウハウを生かし、他業界に積極的に参入することでした。「あくまでも主力商品であるフランジに軸足を置きながら、電力、建築、土木、建設機械、医療機器に狙いを定めて市場を広げる」(下田社長)戦略です。

下田会長は「顧客の要望に迅速に応えられるよう、あらゆる種類の素材を常時ストックしています。他社には真似できない大きな強みでしょう。製造責任を示すための厳しい品質保証体制は海外展開を優位に進めるのにも役立ちます」と品質重視の姿勢を強調します。



高度な複雑形状部品にも対応するため最新の複合加工機も設備

実際、同社は高度な生産技術と厳しい品質管理の裏付けとなる世界的な認証を数多く取得。米国の原子力発電用材料供給に関するASME MO認証やデンマーク・ノルウェーのオイル産業におけるAchilles JQSなども含まれます。「困難な認証取得への挑戦はそれ自体が実践的な社員教育の場になっていると確信しています」と下田社長も胸を張ります。

▶ 同社が誇る高度な加工技術を駆使して作られた部品



### 陸・海・空の調和を図りながら需要を拓く

時代の変化に応じた市場開拓を支えてきたのは1979(昭和54)年のNC旋盤M4の導入から始まるマザック機でした。事業の柱を「海から陸」に移したところです。「その後NC旋盤POWER MASTERを4台購入した時には、切り粉対策に役立つという提案を聞き入れフルカバーに設計変更してくれました。ユーザーの意見に耳を傾け、すぐさま対応する迅速さに感服。リスクを負いながらも改良を重ねて他社に無い独創的な製品を開発する姿勢にも打たれました。その心意気に触れるためにマザックさんを訪ねるのがいつも楽しみです」(下田会長)。



M4から新型のQUICK TURNまで新旧のマザック機が活躍

現在、本社工場の主要ラインはマザック機で構築。超大型機から小型機まで、切削工程の多くをマザックのさまざまな機種が担っています。同社は「海から陸」に「空」を加えた新たな事業戦略を推進。「2020年以降は陸＝原子力発電(海外)、海＝海底資源掘削、空＝航空・宇宙に狙いを定めた需要開拓に力を入れる」(下田社長)計画です。拡・脱・超は常に時代の変化を捉えた技術革新や事業戦略の面でも着々と進んでいます。



**本田精機 株式会社**  
代表取締役社長：本田 典明  
所在地：宮城県仙台市若林区鶴代町3-35-1  
従業員数 30名  
www.hondaseiki.co.jp



# Customer Report 02

## さらに技術を磨き、新たな領域へ

### Japan 本田精機 株式会社

1ミリサイズの精密部品から総重量60トンの機械まで。本田精機 株式会社(宮城県仙台市)は創業時から、受注生産方式を基本とする一貫生産システムで、さまざまな精密機械器具の製造を手がけています。多種多様な素材の切削加工をはじめ、溶接や板金加工、表面処理、組立・調整、据付、メンテナンスなど、モノづくりに関わる幅広い技術を提供できるのが大きな強みです。



02



03



04

- 01. 新設の第八工場に据え付けられたINTEGREX e-1600V/10S
- 02. 第五工場稼働する5軸加工機VARIAXIS i-800
- 03. 最新鋭の複合加工機INTEGREX e-1600V/10Sによる高精度加工
- 04. 本田社長(前列中央)と社員のみなさん

ました。同社も3月11日の激しい揺れとその後の余震により、操業停止を余儀なくされました。「震災当日から多くの社員が会社に駆けつけてくれました。その姿をみて、まだやれるという希望がわいてきました。そんな中、いち早く復旧応援に来てくれたのがマザックさんでした。幸い、当社は津波被害を受けなかったのが比較的早く復旧することができました」(本田社長)。懸命な復旧作業の甲斐もあり、同社の生産状況は半年後には震災前の90%にまで戻りました。

「自社の復旧作業と並行して、お客様の復旧応援にも力を注ぎました。もともと、お客様の工場で作業やメンテナンスをしていたので、自分の工場のように手伝えることができました」(同)。幅広い技術を持ち、お客様のモノづくりに深く関わる同社の強みは、復旧活動においても大いに役立ちました。



将来のビジョンを語る本田社長

単品の部品加工から大型機械製作にまで携わる幅広い業務内容を支えているのは市内の1キロ圏内に展開する8つの工場です。それぞれの工場は加工内容と設備機械に応じた加工部門として機能。工場同士が連携し合うことでお客様の要望に沿った合理的なモノづくりができる仕組みを整えています。

#### 幅広い技術が震災復旧の助けに

2011年の東日本大震災は東北地方に拠点を置く製造業者に大きな影響を及ぼし



オペレータにアドバイスする本田社長

工場、中型マシニング加工の第五工場、大型マシニング加工の第七工場、5軸加工の第八工場ではマザック機を主力設備として導入。とりわけ、2016(平成28)年2月に新設した第八工場では最新鋭の複合加工機INTEGREX e-1600V/10Sが航空・宇宙産業向け治工具の製造設備として活躍しています。

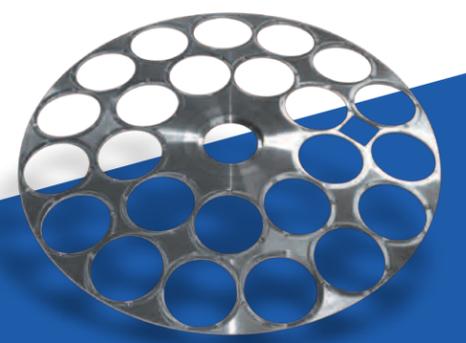
「マザックの操作性の良さとINTEGREXの生産性の高さ」。マザック機のソフト、ハード両面の特徴を本田社長はそう評価します。同社は航空機部品向けの治工具製造に定評があり、同部門の売上比率を3年後をメドに現在の10%から30%にまで高める計画です。本田社長は「高い精度が要求される治工具製造で培った技術をさらに磨き、ゆくゆくは航空機部品加工も手がけたい」と将来構想を明かします。真新しい第八工場は航空・宇宙産業への事業拡大に向けた重要な役目を担っています。



将来を担う若手社員  
本田社長曰く「社員にもモノづくりの喜びを知ってほしい」

#### 航空機向けの治工具から部品製造へ

「私が入社したころにはすでにマザック製の汎用旋盤や初期のNC旋盤が活躍していました」。本田社長はマザックとの縁を振り返ります。8つの工場のうち、旋盤加工の第一



▶ 同社が製作する精密機械器具の部品の一部



01

COMPANY PROFILE //////////////////////////////////////



### GN CORPORATIONS INC.

President & CEO : John Pleša  
本社所在地 : 2873 Kingsview Blvd SE, Airdrie, AB, T4A 0E1, Canada  
従業員数 : 125名  
www.gncorporationsinc.com



## Customer Report **03** 製造工程の自動化でさらなる躍進を目指す

### Canada GN CORPORATIONS INC.

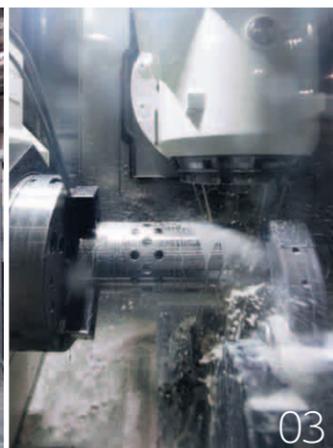
「変動が大きく、競争が激しい業界で生き残るためにはどうすればよいのか?」。石油、ガス産業向け部品製造、GN CORPORATIONS INC.の社長兼CEO、John Pleša氏が導いた答は工場の革新的な自動化を成し遂げることでした。製造工程の自動化により生産性を向上し、短納期と低価格を実現、同社の国際的な競争力を高めました。「自動化による安定的で高品質な部品加工は我が社のモットーである不良品ゼロにもつながります」とPleša氏は断言します。



Canada



02



03



04

- 01. 生産性を2倍に引き上げたパイオニアライン
- 02. INTEGREGX e-500Hによるシャフト加工
- 03. 複雑な形状の部品も効率的に加工
- 04. 社長兼CEO John Pleša氏

GN CORPORATIONS INC.が手がけている部品は非常に高い精度が求められます。「われわれの目標は要求精度を満たした部品を速やかにお客様に届けることです」(リーン生産マネージャー、Chamith Rathnayake氏)。

同社が加工する部品は一つひとつが重要な役割を担っており、たった一つの不良品が出ても最終製品に大きな影響を及ぼします。そのため、部品加工に対する同社の姿勢は厳格です。製造工程で何か問題が見つければ、誰が製造、計測、梱包、発送したかをトレースして、不良品を2度と出さない仕組みを確立しています。



厳格な工程管理で高い品質を保つ

そんな同社の生産を20年以上前から支えているのがマザックです。「単に工作機械を提供するだけでなく、自動化を提案するパートナーとして切っても切り離せない関係。機械加工技術と自動化技術を提供しているのが特徴的ですね」。Pleša氏はマザックについてそう語ります。

#### マザック機で構築された2つの生産ライン

同社の工場で生産の中心を担っているのは最新鋭機を含む60台に及ぶマザックの

工作機械。工場内には「パイオニアライン」と「フロンティアライン」と呼ばれる、2つの完全自動化生産ラインがあります。どちらもマザックを代表する先進的な複合加工機とロボットで構成。高品質な製品の製造と飛躍的な生産性の向上を実現しています。



最新の複合加工機で短時間かつ高品質な加工を実現

具体的には、部品の段取り作業を効率化し、サイクルタイムを短縮。また、製造工程におけるヒューマンエラーの削減、品質の均一化などの効果をもたらしています。

長尺シャフト類の部品加工を担うのが、4台の複合加工機INTEGREGX e-500Hで構成されるパイオニアライン。その名の通り、石油・ガス産業機器の製造方法としては、これまでにない全く新しいアプローチで設計された自動化ラインで、同社の生産性を2倍に引き上げました。切削、計測、検査のすべての工程がラインの中で完結しており、「単体機8台を24時間稼働させたのと同じ生産性」(Pleša氏)を実現しています。

▶ 高精度に加工された同社のシャフト部品



ロボットによる自動化で連続無人運転を可能に

パイオニアラインと同様に自動化が図られているフロンティアラインは10台のINTEGREGX i-200STで構成。部品の機内への搬入出をロボットで行い、製造工程の大部分を無人化することで、24時間連続運転を可能にしています。

#### 自動化こそが次世代の製造業のあり方

工場長のJuan Roubaud氏は「部品形状が年々、複雑になってきており、2軸旋盤やマシニングセンタ単体での加工は非効率で段取りなどに時間がかかりすぎるため」と複合加工機導入の理由を語ります。

Pleša氏もRoubaud氏も「パイオニアやフロンティアのような生産ラインの自動化こそが次世代の製造業のあり方だと確信しています」と強調。同社にとってマザックは今後も戦略的なパートナーであり続けるでしょう。



01

## Customer Report 04

### マザック機で大径・長尺パイプ加工分野に本格参入

 Germany Elting Geräte- und Apparatebau GmbH & Co.KG

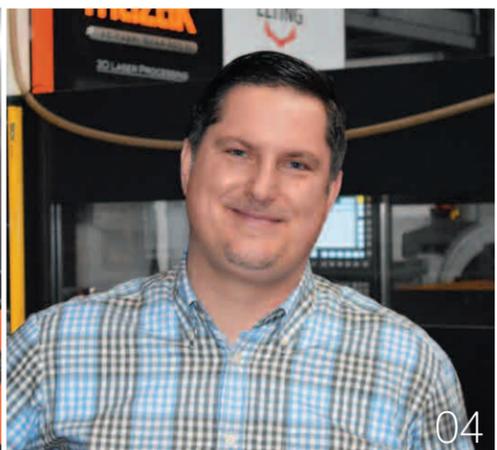
精密に加工されたさまざまな板金やパイプは、輸送用機器をはじめとするあらゆる工業製品に欠かせない部材です。Elting Geräte- und Apparatebau GmbH & Co.KG (以下、Elting社)は、板金・パイプ加工の分野で多くの実績を重ねているドイツの有力企業。そんな同社の躍進に貢献しているのが、マザックのレーザー加工機、3D FABRI GEAR 400 IIです。



02



03



04

- 01. 同社のビジネス拡大に貢献する3D FABRI GEAR 400 II
- 02. 4kWの出力で、厚さ最大25ミリのパイプを加工
- 03. 完成品を自動搬出するアンローディングステーション
- 04. Managing DirectorのGuido Elting氏

COMPANY PROFILE //////////////////////////////////////



Elting Geräte- und Apparatebau GmbH & Co.KG

Managing Director : Franz Elting, Guido Elting  
所在地 : Industriestrasse 12-14 D-46419 Isselburg Deutschland  
従業員数 : 50名  
www.elting-metalltechnik.de



Customer Report 04

 Germany Elting Geräte- und Apparatebau GmbH & Co.KG

いた画面構成やボタン位置などすべてが使いやすいように設計されています。事務所でプログラムを作成する際にも、加工シミュレーションなどの各種ソフトウェアのおかげで、私たちのプログラミング作業ははるかに簡単になりました(同)と、3次元加工のプログラミングを容易にするマザックのCAD/CAMシステムの有用性についても強調しています。



CNC装置MAZAK FXの優位性を語るRoman Jansen氏

Elting社は、「迅速・柔軟性・高品質・納期順守」を経営理念として掲げています。Guido Elting氏は3D FG 400 IIの購入検討時にマザックの日本本社を訪れ、追加すべき機能などについて意見交換を綿密に行いました。同機の特徴を正確に把握し、性能を最大限に引き出すためです。同社が本拠地を置くイッセルブルクの工場では、3D FG 400 IIが経営理念の実現に向けて、狙い通りの活躍を見せています。

#### 新型機を駆使してビジネス拡大

Elting社はドイツ西部のイッセルブルクに本社を構える75年以上の歴史を持つ会社です。二次元レーザー加工機とパンチングマシン、ベンディングマシンなどを使用して、主に薄物の板金加工を手がけていました。同社の成長に弾みをつけたのは、これまで経験の少なかった大径・長尺パイプの加工分野への本格的な参入です。「このビジネスへの参入は勇気のいる決断でしたが、判断は間違っていないと」とManaging DirectorのGuido Elting氏は語ります。



丸パイプの直径は400ミリを超える

Guido Elting氏は「3D FG 400 IIは機械のどの部分を見てもパイプ加工に適した設計になっています」と同機を高く評価します。これは加工干渉の少ないスリムな加工トーチや最新の制御技術による高速・高品位な加工、多くの素材形状に対応する省スペースで効率的な自動化システムなどが同社の生産性向上に貢献している証です。実際に工程集約を実現する各種機能は同社に多くの価値をもたらしています。「レーザー加工後に段取り替え無しで行うことができるタップ加工機能は生産リードタイム短縮に大変役立っています。また、パイプ素材の外形寸法を計測して歪みを自動補正するタッチセンサシステムのおかげで、納められた加工品の精度不良による追加加工に悩んでいた企業から、新たに受注を獲得することができました」。Guido Elting氏は導入効果を満足げに語ります。



タップユニットとタッチセンサにより、さらなる工程集約を実現

パイプ加工ビジネスへの参入にあたって同社はマザックの三次元レーザー加工機、3D FABRI GEAR 300を導入。その後、大型機である3D FABRI GEAR 400 II(以下、3D FG 400 II)へ設備更新を行いました。「競合他社が対応できない大型サイズのパイプ加工を手がけるため」。同氏はその理由を明かします。事実、3D FG 400 IIは、直径406ミリ、長さ15メートルにもおよぶ大径・長尺パイプの加工を可能とし、同社の競合との差別化に成功しました。

#### 高い操作性を誇るCNC装置で作業効率向上

また、機械オペレータのRoman Jansen氏は、CNC装置の操作性を高く評価しています。「このCNC装置は、人間工学に基づ



▶ 切断、穴あけ、タップ加工など3D FG 400 IIで高精度に加工された製品の一部

# MAZAK PEOPLE

Mazak Corporation (米国現地法人) 経理

● 小駒努さん

## チャレンジ精神で、さらなる飛躍を

製造から販売、アフターフォローまで、国内外にたくさんの関連拠点を展開するヤマザキマザック。MAZAK PEOPLEは、グループ各社の第一線で活躍する人々を取り上げます。

今回登場するのは、米国現地法人のMazak Corporationで経理を担当している小駒努さん。国内外の経理部門で業務経験を積む若手のホープです。

### PROFILE 小駒努さん

2007年4月入社。本社経理部門に配属され、仕入先への支払いや資金管理、為替業務などを担当。その後、美濃加茂製作所の経理部門に異動し、工場経理の経験を重ねた。

### — 現在はどんな仕事に携わっていますか？

米国工場部門の財務報告や利益計画書の作成、決算業務、生産機種の標準原価算出と分析などを担当しています。必要に応じて自身の担当業務に捉われず、他部署の仕事をサポートすることもあります。



正確な原価算出のためには、現場での実機の確認も欠かせない

### — 米国現地法人における、業務の進め方の特徴は？

米国現地法人は日本の本社に比べコンパクトな組織であること、また米国は失敗を恐れずにチャレンジする文化であるため、すべてにおいてスピード感があるのが特徴です。ここでは、検討に時間をかけるより、まずは行動し、状況を見て軌道修正をしながら最終的な目標を達成するアプローチが求められます。赴任当初はこうした考え方が身に付いていなかったため、新しいプロジェクトの動きに取り残され、後からの情報収集や対応に大変苦労しました。

### — その経験から何を学びましたか？

上司からの指示を待つのではなく、自ら何をすべきか考え、能動的に行動することの大切さです。そのためには他部署についての理解も必要です。自分の業務が周りにどのような影響を与えるのか知って

おかなければ、正しい判断・行動はできません。また、他部署に積極的に情報を取りにいき、自分なりに先を見据えておくことを常に意識しています。そうすることで、不測の事態も減らすことができ、急に意見を求められて困る場面も少なくなりました。

### — 今後取り組む予定の業務は？

米国に限ったことではありませんが、当社では、さまざまなお客様のニーズに対応するため、多種多様な工作機械を製造・販売しています。新型機の開発や既存機種の改良が行われる毎に原価算出を行うのは当然ですが、今後は原価低減に向けた提案を行っていきたく考えています。もちろんそのためには、技術部門や生産部門との連携も必要ですし、自分自身も経理以外の知識を増やしていかなければなりません。大きな課題に対してのプレッシャーがある反面、「やりきってやろう！」という思いも湧き上がってきます。



自ら情報を取りに行く姿勢が仕事の質を高める

### — 今後の駐在業務を通して、身に付けたいことは？

先ほど述べたように米国現地法人は本社に比べ小さな組織ということもあり、社員一人ひとりの守備範囲が広く、業務が多岐に渡ります。このため、経理部門としての視点だけではなく他部門

からの視点、さらには米国市場や世界経済全体に視野を広げて業務を行うことが求められています。このような業務環境を通じて、自部署だけではなく会社全体が置かれている状況、つまり「経営」視点で何をしていくべきかを考え、迅速に行動する姿勢を身に付けたいです。米国現地法人での勤務は、そのための大きなチャンスだと思っています。

帰任後も、米国現地法人での経験を活かしながらい貫して経理業務に携わりたいという小駒さん。米国で身に付けた、失敗を恐れずに積極的にチャレンジする姿勢と広い視野は、国際企業でさらなる活躍をするための大きな糧となるでしょう。

### 休日の過ごし方

家族で買い物に出かけたり、2歳の娘と公園で遊んだりしています。休暇を利用して、家族でナイアガラの滝まで車で出かけたことも。高速料金やガソリン代が日本より安いので、手軽に遠出できるのは嬉しいですね。



## News & Topics 新製品紹介

### スマートファクトリーを実現するフォグコンピューティング装置



## Mazak SMART BOX

[ マザック スマートボックス ]

MAZAK SMARTBOX™は、お客様の工場のスマートファクトリー化を実現するフォグコンピューティング装置です。IT業界大手であるシスコ・システムズの最先端技術の採用により、高度なサイバーセキュリティを確保しています。MAZAK SMARTBOX™1台につき、製造業向け通信規格MTConnect® (MTコネク) 対応の設備機器を最大6台まで接続することが可能です。工場内のあらゆる機器とオフィスを安全にネットワークでつなぎ、生産工程の進捗状況や設備稼働状況のデータをリアルタイムに収集・可視化することで、問題発生時の素早い対応や生産改善を促進します。

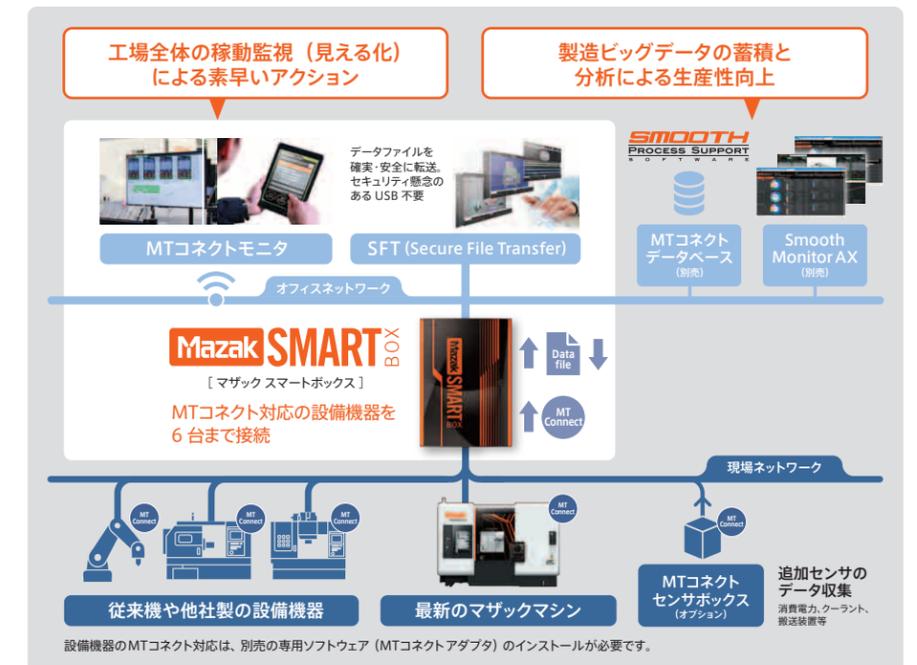
### MAZAK SMARTBOX™の特徴

- 1 メーカーやモデルの新旧を問わない通信
- 2 確実・安全なネットワーク接続

MTConnect® を通信規格として採用している機器であれば、メーカーやモデルの新旧を問わずデータ通信することが可能。

シスコの最先端技術の採用により、高度なサイバーセキュリティを確保。内外からの不正なアクセスを遮断し、確実に安全なネットワーク接続を実現。

### ネットワーク構築イメージ



ヤマザキマザック美術館は、美術鑑賞を通して豊かな地域社会の創造、ひいては日本、世界の美と文化に貢献すべく、名古屋の中心地・東区葵に、2010年4月に開館致しました。

当館は、創立者で初代館長の山崎照幸(1928-2011)が蒐集した18世紀から20世紀にわたるフランス美術300年の流れを一望する絵画作品及びアール・ヌーヴォーのガラスや家具等、ヤマザキマザックのコレクションを所蔵・公開しております。

みなさまのご来館をお待ちしております。



ジュール・パスキン(1885-1930)  
《椅子に座る女》1927年 油彩、キャンバス

## ジュール・パスキン 《椅子に座る女》

THE YAMAZAKI MAZAK MUSEUM OF ART  
所蔵作品ご紹介

白い肌につぶらな瞳と赤い唇が印象的な女性。頼りなげな表情を浮かべて足を組み、長いすに腰掛けています。画面は霞がかかったように白くぼやけ、夢中の情景のようです。この作品を描いたパスキンはブルガリアのユダヤ人家庭に生まれ育ち、20世紀初頭のパリを舞台に活躍した画家です。当時パリに集まっていた外国人芸術家たちのグループ「エコール・ド・パリ」を代表する存在でしたが、奔放な生活を送った末に45歳の若さで自殺しました。晩年は「真珠母色」と呼ばれる淡く輝く色彩使いで、パリに生きる女性たちの姿を哀感をこめて繊細に描き出しています。この作品は「真珠母色」の時代の典型的な作品です。パスキンが友人の若い画家、ピエール・マルセイユのアトリエに入り浸り、一緒に制作していた時期に描かれました。当時のお気に入りのモデルは、短髪とふっくらした顔立ちが愛らしいバキータとセザリーヌ。この作品に描かれているのもそのどちらかでしょう。かわいらしい少女が「真珠母色」に包まれ、憂愁に満ちた姿に変貌しています。

ヤマザキマザック美術館 × 愛知県立芸術大学創立50周年記念事業

# 森のDNA

芸術は森からはじまる

2016年 11.18 [金] - 2017年 2.26 [日]

- ◎ 開館時間：平日/午前10:00~午後5:30  
土・日・祝/午前10:00~午後5:00 (入館は閉館の30分前まで)
- ◎ 休館日：月曜日(月曜日が祝日の場合は翌平日/12月29日~1月5日、1月10日)
- ◎ 入場料：一般1000円(10名様以上 800円)、  
小・中・高生 500円、小学生未満 無料

音声ガイド無料サービス



出展作家

エミール・ガレ・今尾泰三・吉田達彦・鈴木春香・河合真維・森下友奈

今年創立50周年を迎えた愛知県立芸術大学を卒業した活躍がましい若手作家や教員が、ヤマザキマザック美術館を神秘的な「森」に見立て、自然や動物が描かれた絵や彫刻、映像アニメーションを展示します。展示室は「恩恵、神秘、神、コスモス(宇宙)、やすらぎ、畏敬、驚き、異空間移動、継承」など、いくつかのセクションに分かれ、鑑賞者はさまざまな表情を持つ森のラビリンス(迷宮)へと誘われ、さながら旅人のように、過去から現在、未来へとさまよいつつながら作品を鑑賞することになります。美術館所蔵の19世紀末アール・ヌーヴォー時の家具やガラスと若きクリエイターたちの美術作品が時空を超えて一堂に会する「美術館(都会)の森」をぜひお楽しみください。